



日刊夕日五十二月一
日刊夕日五十二月一
日刊夕日五十二月一

大林の長期戦に對する國民の覺悟

講演は今夜第三小學校で

平市及び市内各種団体主催の臨時講演會は二十五日午前、時局講演會は今二十五日午前、相陸軍大將林銑十郎氏を迎ひ、第三小學校講堂に催される。林大將の講演は午後一時五十分、降車直ちに講前廣場に於て官民多數の出席する中に軍事關係各団体の関係者、住吉屋本店に休憩午後二時三十分同店出發警備隊を視察後平市中に歸着(午後四時)同六時から前記第三校の講演に臨み「長期戦に對する國民の覺悟」と題して約一時間半の大獅子吼を試み、夜八時から大獅子吼を試み、夜八時から官民合同歡迎會(谷口樓)に

歡迎會

今夜谷口樓で

躍進の平庶民金庫

昭和十二年年度成績

特に佳良なる固定貸の整理

剰余金一萬一千余圓

平庶民金庫では此の程組合總代會を開き十二年決算並に十三年計畫を原案の通り附議決定した。當年度の財産目録は、總額七四七〇一三圓〇四錢、負債五六四二九四圓九七錢、差引一八二七〇八圓〇七錢。次いで貸借を對照し左記損益計算を見たが十二年度の出資者配當は拂込額に對する年四

常識講座

マゾヒズムは單にマゾヒズムと呼ばれてゐる異性から虐待され傷害を受けることを快樂とする變態性慾。マゾキストとかマゾヒストとか、一種の狂的情熱家を指し示す同義語である。

前年度末一八九件三三四三二六圓四二錢本年度貸付一八二件六六四四二五圓六三錢償還一〇六九件六一八〇九七圓五四錢現在一〇〇二件三八〇六五四圓五二錢現金は前年度末六六六〇二二錢本年度受六〇二五九六三圓九八錢拂三〇二五七〇五圓四四錢現在六八一八八六五九錢で格段の躍進を示し殊に固定貸の整理にありては前年度末七十七件一八五六圓九五錢あつたものを四十七件二四二五八

冷たい極貧者に温かい同情金

市内百三十戸に助成會から

舊年末に百九十圓惠與

平市助成會では例年の如く市内極貧者に對し舊年末から正月にかけての數日、人並の休日と喜びを與へたい同情金を贈るべく去る二十三日午後五時市役所内に方面委員會を開き該會者及び惠與金について協議を遂げ来る二十七日頃各家庭へ渡される本年の右總戸數は百三十戸この金額百九十圓であるが惠與金の割合は左記の如くである。

指導打合

新豫算編成の指導打合せは二十五日午前九時から平市中會議事堂に於て石城郡北八ヶ町村を招集、縣地方課から齋藤、佐藤兩屬

石城郡内の河川視察

松浦主任技師本縣土木課河川係藤原技師が長野縣河川課へ昨年末榮轉したので其の後を受けた松浦孝一技師は今二十五日午後十二時五十分平驛着で石城に出張夏井川改修事務所高橋所長の東道役で改修中の新川を實地踏査したが引續いて夏井川、仁井田川、藤原川、蛭田川等を視察の豫定である。

石城郡下の漁港調査

農林省漁政課太田技師及び本縣土木課の木村技師は来る二十八日から三十日まで石城郡下に於ける漁港調査を行はれるが同調査は四倉、豊間、江名、仲の作、小名濱の各港は勿論六萬圓の豫算で目下工事中の植田町小濱港の中間検査次へて勿來町九面港の調査は地元から熱心なる修築運動を續けられてゐるもので今回の調査調査は或は十三年度に施行される曙光でないかとも見られてゐる。

坑夫の古鐵泥

石城郡湯本町の口居住坑夫宮城縣名取郡生田村の坪沼字北原一一生れ山田長政(三三)は昨年十二月二十四日午後七時半頃同町入山炭礦の煉炭工場脇から古鐵四五百目價一圓八十錢を窃取して檢査さる。

雇人の不正

七十六圓詐欺平市堂の前二一居住岡本信吾(三三)は昨年十月から市内長橋町四四古物問屋加藤義久方に被雇者が職工場の開業を勤めて主人義久から職工の募集を依頼され旅費その他の前拂三十六圓を預り恰かも職工を雇入れたるものゝ如く私文書を偽造して前記卅六圓を横領遊興に費消し更に主人から道具の購入に預つた五十圓を先方へは道具の注文で十圓の手附金のみを支拂ひ新具の出來るまで古道具を借りて之れを購入せるものゝ如く偽り四十圓を胡亂化して遊興に費せること平署に發覺檢査された。

石城郡北八ヶ町の改修竣工式

来る二月十一日頃石城郡北八ヶ町の改修竣工式は既報の如く地元大浦村が協賛會を組織し隣接部落からも應分の贊助を得て落成を喜ぶ催に木村大浦村長等の奔走中であるが約六百圓の寄附額に達したので来る二月十一日午前十時から國道松葉橋畔に建つ改修記念除幕式を舉行の後祝賀會場を大浦小學校

遊興歸りに掛物泥

石城郡豊間町の柳町居住志賀勇(四三)は去る十二日午後六時頃郡内内郷村の宮字金坂飲食店神戶屋大串米藏方に登樓しての歸途同家の廊下にあつた書嚮物六本を窃取し其れを石城郡好間村の日曹吉井飯場方に携へ「東山の龍」と稱す

戦地 敵を目前にして 君が代と出征歌

この時部隊の何處からか出征歌一勝つて来るぞと勇ましく「また別の方面から國歌一君が代」そして万歳の合唱が聞えて來ました。皆闘の戦場に敵を目前にして然も他國の星を空に眺めて吟ずる最後の歌、その聲や勇壯、その聲や悲し、自分等隊長以下本部幹部も

借りの五十圓の品を三圓余で

千葉縣山武郡白里町字南今泉生れ當時住所不定日雇業内山武次郎(三三)は去る二日平市十五丁目佐藤木工場方の雜夫となり主人方から借受けた布圍一組と襪卷二枚及び座布圍五枚外數點價五十圓を我が物顔に市内南町古物商猪狩ちよ方へ金三圓五十錢で賣却したること發覺平署に檢査されたがちよも古物商違反で取調べ中である。

女給の公休日

毎月十八日と決定平市西洋料理組合では女給の公休日につき營業間に協議中であつたが来二月から毎月十八日業者一齊に休ませること決定次第を平署に届出で

魁文堂

白梅便箋 忠孝便箋 文鳥便箋 文馬便箋 名作詩箋

間の本道上をまっしぐらに敵陣射して進む爽快さ、どの兵隊の顔を見ても眼は血ばしつて仁王様のやうだ、他の諸兵隊は未だ前進せる形跡なし、

「貴様頭張れッあれあの城壁が最後の場所だ」何くの誰の聲か、幾十日かの進軍戦に靴は破れ、服にはまだらに露筋の焼け、相馬燈とは此の事か、字巴とは此の事か、

今晩は北西の風、暗明日は南東の風、時後遊藝 (小名濱觀測所)

産業方面

糯餅の話 (下)

手搗と機械搗き

糯の中は遠傳的に梗が混入してゐるものが中々多いこれはよく乾燥して見れば直ちに判別出来る、生産者も商人も精白して初めて判るのだからこの遠傳的混入は困る、味は手搗が第一、餅にする時機械搗がよいか手搗がよいかよく問題になるが東京市大泉動力組合では半馬力の機械で一日六石ぐらゐ搗くのだから能率の點では問題にならないが味の點では手搗は水が多く入るから柔くなつて組織も密になり断然味が良いカビない機械搗、しかし手返しの手水がカビ易い缺點がある、機械搗きは手水がないから水分少なく硬いし早く出来る爲め組織も粗く味は手搗に及ばない、しかし機械搗きは水分が少ないからなか／＼カビない、機械搗の場合仕上げ搗きを手搗きにするればその缺點は或る程度まで除ける、

水浸けは二晝夜、餅はつく前の水浸けは四十八時間を理想とするが、これで計算すると重量で四割、容積では五割増加する、つき上げ後一日で計れば重量で機械つき四割、手つき四割七分増加してゐるついでから数日間は水分が蒸発し第一日は三パーセント、第二日目から一パーセント位の割合で蒸発するから数日間後に貯蔵すればカビは生えない、機械つきなら一年貯蔵してもカビは生えない、手つきの時間を測ると標準練りつき(何れも三升)小杵五分間

廻りつき五分、仕上げ搗き(手返し)大杵一人で五分間である、(完り)

看護婦 急派の求めに應じます 平看護婦会 電話三〇七

産科 婦人科 院長 木村寅次郎
 外科 醫學博士 内木宗八
 藥局 藥劑師 大岩俊雄
 平市新川町九二
 入院隨意 木村病院
 病室完備 電話一六四番

幸福の父
 健康の母たらんには 召し給へ!
 機那サフラン酒は 子寶を得て易し。
 定價 二瓶一廿一
 房藥郎仁澤吉

婦人機那サフラン酒

平市五丁目角 山野邊藥局
 舊年末、年始の御進物には 贈つて便利! 受けて重寶
 ツルヤの商品券を
 その他、防寒洋品 化粧品、箱入豊富
 ツルヤ
 平四・電一四〇

スヘインG・H・N 元詰
 ゴルフポートワイン
 甘味葡萄酒 1・10
 舞婦人の方には少し水を加へて 召し上ると風味一そう佳良です
 (平2) 西村屋藥舗 (電3)

デーリーサービス
 特にマルトモのランチは...
 材料のおまかせを願つて居る爲め其の節々のおいしい新鮮な物を御進め出来ましますので御華客様からいつも御好評を蒙りて居ります
 御来店御召上りの時も御來客様用仕出し等概べて御値段を御示し下さつておまかせ願へますれば季節の調材料で美味快進なものを調理進上出来ましますので之を御進上に御好評を御座います

日	土	金	木	水	火	月	割日
ランチ	ランチ	ランチ	ランチ	ランチ	ランチ	ランチ	ランチ
CA	CA	CA	CA	CA	CA	CA	CA
公	公	公	公	公	公	公	公
差	差	差	差	差	差	差	差
上	上	上	上	上	上	上	上
ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま
す	す	す	す	す	す	す	す

RESTAURANT MARUTOMO
 堂食モトルマ
 平市停 車場通

和洋銅鐵、金物問屋
 店商屋釜
 九九・九電

モートル 變壓器 販賣、修理
 社會資合 所工鉄藤佐
 町見月市平 (番二六三話電)

大河内 整形科醫院
 平市搔槌小路
 電話五八八番

債券公債兩替金融
 多田井質店
 平市大工町 電話五九一番

産科、婦人科専門
 根本醫院 (平市南町) (電話三四番)
 病室 入院隨時 根本庄次郎
 増築 手術室完備 根本貞雄

内科、小兒科 平市田町 電話五一三番
 外科、花柳病科
 耳鼻咽喉科
 レントゲン科
 高久病院 院長 醫學士 高久忠